

読み合わせA 208号室の前で

※地の文はトーマスが読み上げてください。

時計は午前2:20を指している。

廊下の白熱灯がチカッと光る。一人の男がドアノブに鍵を差し込んだが、回らない。ガチャガチャとやっていると、もう一人の男が工具箱を肩に担いで近付いてきた。

テオ「お客様、すいませ～ん。そこ、壊れてるんだよ。今から直すわ」

トーマス「そうか、どうりで……」

トーマスが顔を上げた瞬間、2人の視線が噛み合う。廊下の光が一瞬暗くなり、もう一度ともる。

——その途端、時が止まったような気がした。**ゴツッとした輪郭。尖った顎、小ぶりな鼻、わずかに下がった口角。瞳の色も、同じく薄い灰がかった色だ。違うのは、髪の色だけ。そこには、そつくりな顔をした男が居た。**

トーマスは清潔感にあふれ、精悍(せいかん)な印象を与える男だ。一方のテオは、生氣を失ったような表情で、疲労を滲ませている。だが、雰囲気こそ違えど——2人の面影は明らかに重なっていた。

テオ「え、ちょっと待って。ウェイト……誰だ？ お前」

トーマス「……こっちのセリフだ。お前こそ誰だ？」

テオ「人に名前を聞く時は自分から名乗るもんだ……名前は？」

トーマス「俺は……トーマス・カインだ。恐らく」

テオ「ワツ？ 恐らくって何だよ」

トーマス「いや、実は……」

テオ「ストップ、これ、立ち話のネタじゃないよな。……とりあえず中、入るか？ 俺もこの修理が終わったらオフタイムだし。な？」

テオがクイッと親指で示した先は、トーマスが宿泊する予定の208号室だった。ひとまずドアノブを直して2人で中に入り、お互いの事を知ることにした。

各プレイヤーは、【目的A】を確認してください
確認したあと、調査フェイズ1を開始してください